

第2主体部は第1主体部の東側にほぼ軸を揃えて設置されています。平成25年度の調査では粘土が盛り上がっている状態で発見されました。この粘土を除去したところ、その下に板石を組み合わせている様子が確認されました。石組みの下から多量の鉄製の武器が発見されました。発見された武器は鉄製大刀2、鉄製剣1（木製の鞘に入った状態）、鉄鏃の束2、鉄鏃2などです。他に漆塗りの壺も2点出土しています。また、石組の下には石棺があり、大きな蓋でふさがれていました。

石組みの下で発見された石棺の蓋の上に多量の武器が並べられていました。鉄製大刀と鉄製剣は石棺の西側に切っ先を南に向けてならべて置かれ、鉄製剣の上に載った状態で剣、大刀と直交方向で鉄鏃が1束、剣よりも西側で剣と平行する方向で鉄鏃が1束おかれていました。鉄鏃は矢の先の部分ですが、置かれた時は矢羽や矢柄もあって矢の束の状態だったようです。これらは石棺室の中に被葬者を安置したあと、石蓋をかけたあとにささげられた武器と考えられます。遺体を葬った後に死者が守られることを願う儀式が執り行われたのでしょうか。これらの武器の特徴から第2主体部が設置された時期は古墳時代中期、5世紀後半と考えられます。



粘土で覆われた状態



石組み遺構検出



石組み遺構全体



石棺蓋石



石棺蓋石上鉄鏃束、大刀、剣（槍、戟？）出土状況